

地域包括支援センターに関する ケアマネジャーへのアンケート 結果報告

令和 8 年 1 月19日
練馬区地域包括ケア推進協議会

調査概要

【目的】

地域包括ケアシステムの確立に向けた取組を加速させ、事業の質の向上を図るため。

【対象】

区内介護サービス事業所に在職する

介護支援専門員 899人（381事業所）

【調査方法】

メールおよびFAXで配布、LoGoフォームまたはFAXで回収

【期間】

9月1日（月）から10月14日（火）まで

【回収状況】

34.7%（312人）

調査結果

所属事業所別回答数

	練馬	光が丘	石神井	大泉	合計
居宅介護支援	77(91%)	66(84%)	61(88%)	68(86%)	272(87%)
小規模多機能	0(0%)	1(1%)	2(3%)	3(4%)	6(2%)
グループホーム	3(4%)	1(1%)	2(3%)	2(3%)	8(3%)
介護老人福祉施設	2(2%)	5(6%)	1(1%)	4(5%)	12(4%)
介護老人保健施設	1(1%)	1(1%)	0(0%)	2(3%)	4(1%)
介護医療院	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
有料老人ホーム	2(2%)	5(6%)	3(4%)	0(0%)	10(3%)
合計	85(100%)	79(100%)	69(100%)	79(100%)	312(100%)

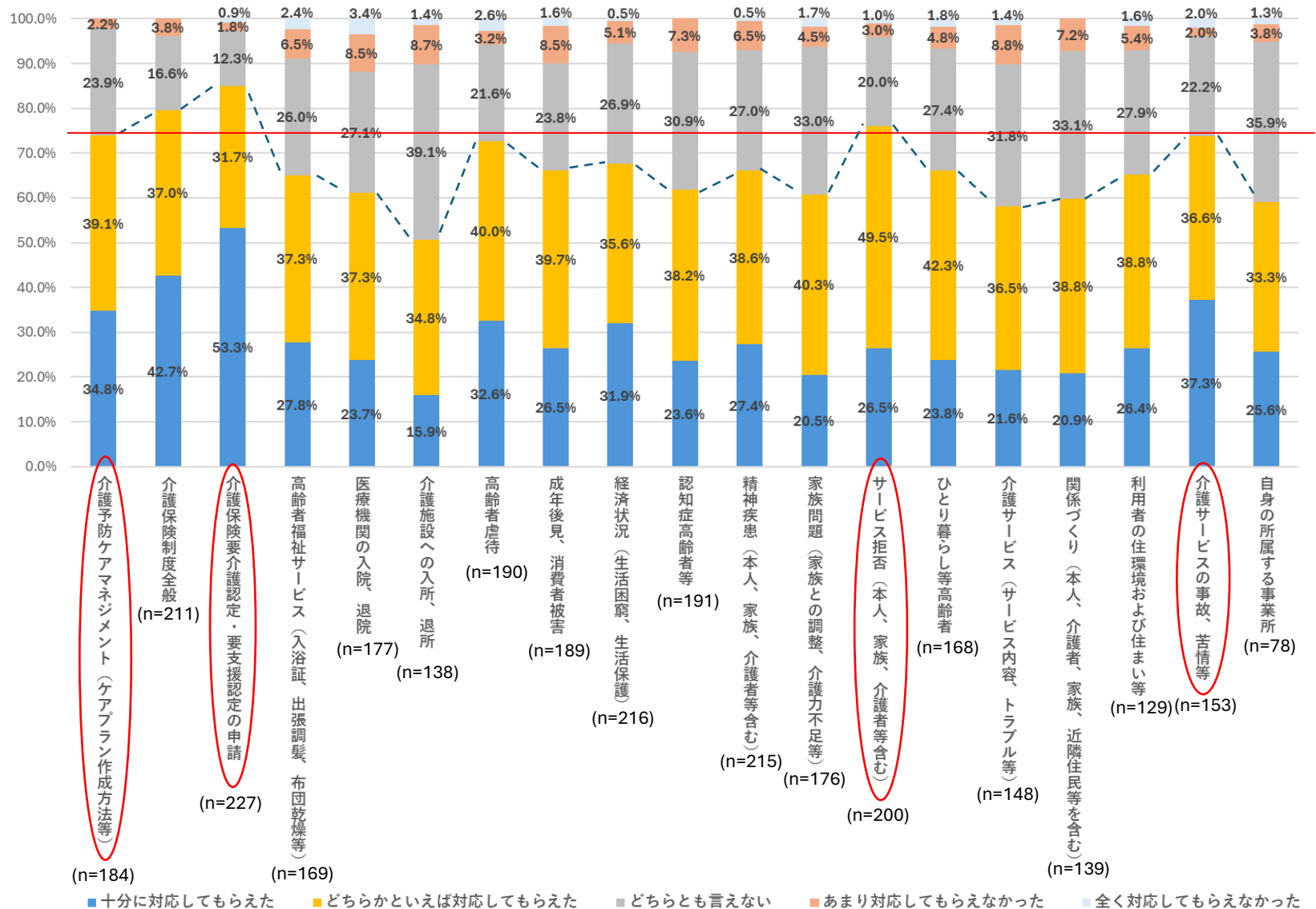
経験年数と地域包括支援センターへの 相談の有無

	あり	なし	合計
2 年未満	19(7%)	6(38%)	25(9%)
2 年以上 5 年未満	23(8%)	0(0%)	23(8%)
5 年以上 1 0 年未満	72(27%)	2(13%)	74(26%)
1 0 年以上 1 5 年未満	77(28%)	1(6%)	78(27%)
1 5 年以上 2 0 年未満	49(18%)	3(19%)	52(18%)
2 0 年以上	31(11%)	4(25%)	35(12%)
合計	271(100%)	16(100%)	287(100%)

相談内容別満足度

地域包括支援センターへの相談内容別の対応状況では、介護保険認定申請が最も多い。

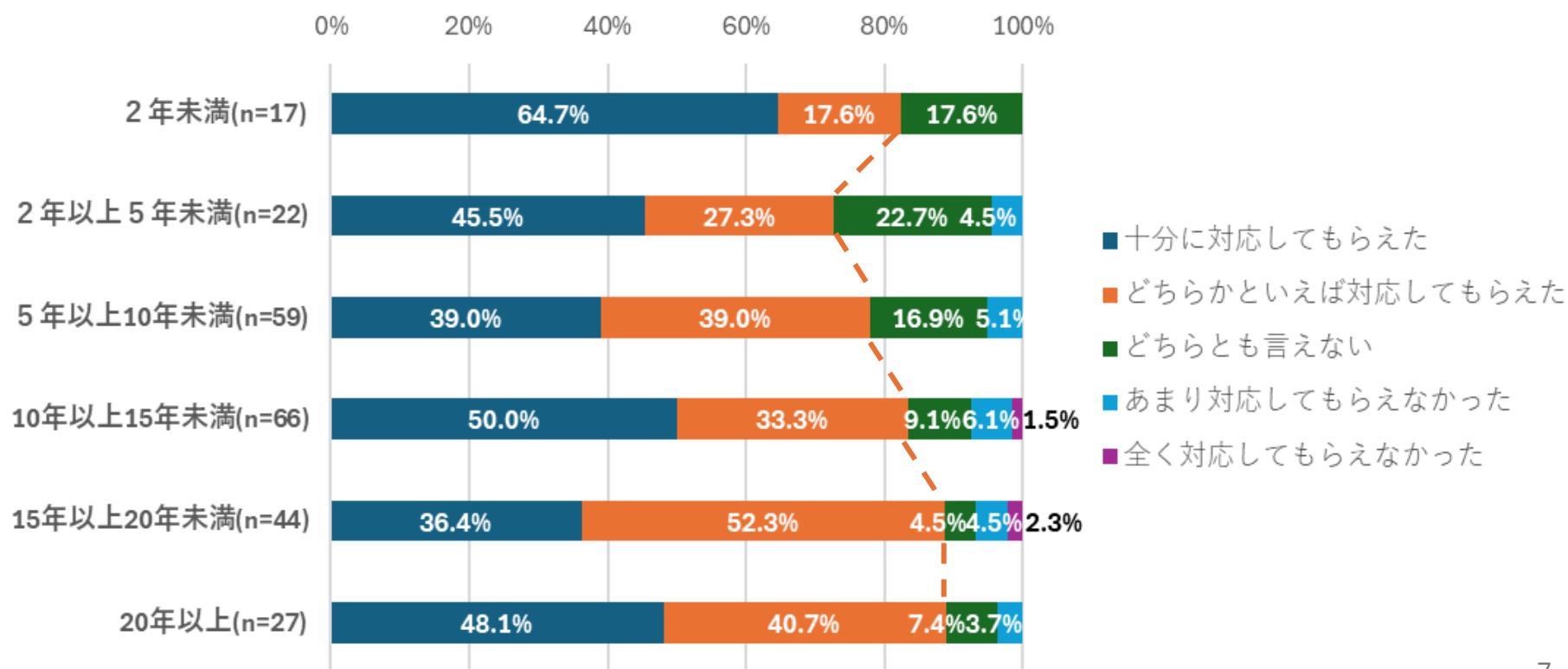
介護予防ケアマネジメントやサービス拒否、介護サービスの事故・苦情に対する相談対応も満足度が高い。



相談内容別における経験年数別満足度

- すべての回答群において「十分に対応してもらえた」、「どちらかといえば対応してもらえた」と70%以上が回答している。

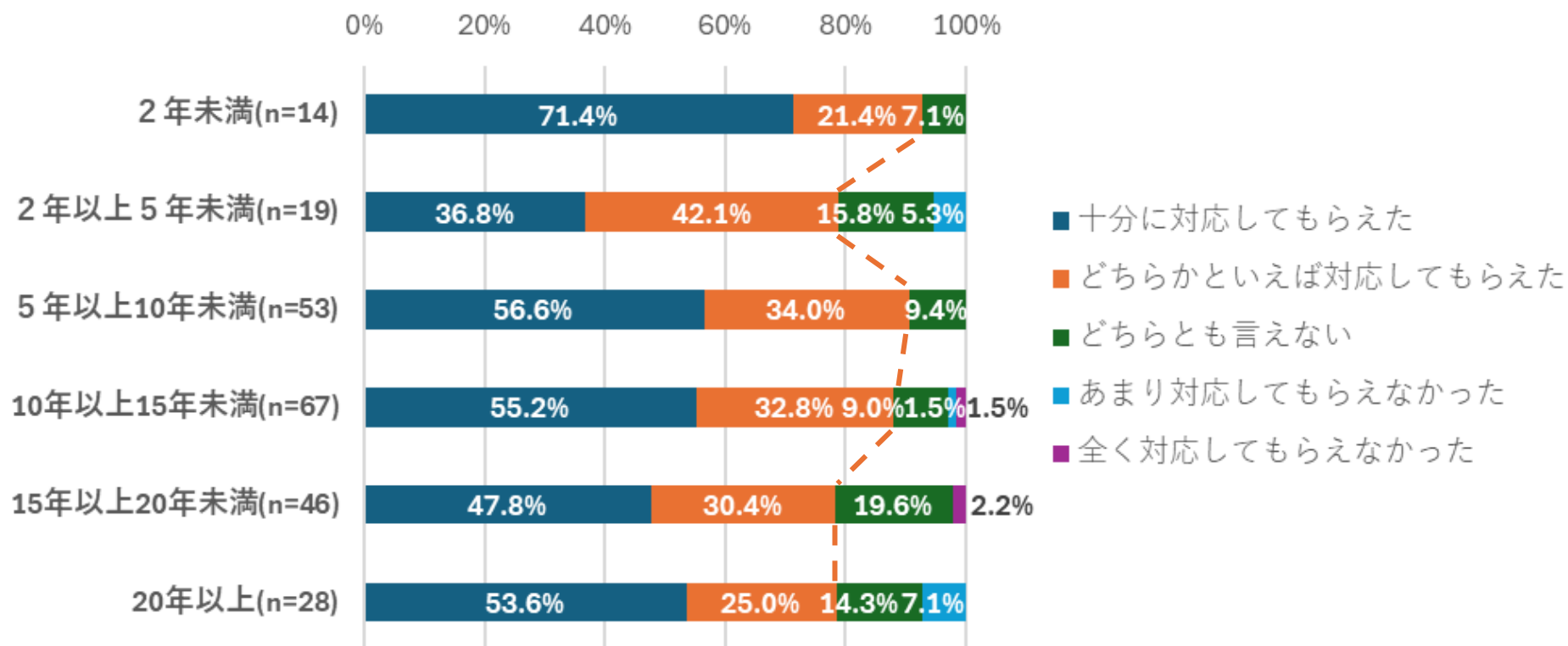
介護予防ケアマネジメント



相談内容別における経験年数別満足度

- ・ 2年未満のケアマネージャーからの満足度が高い。

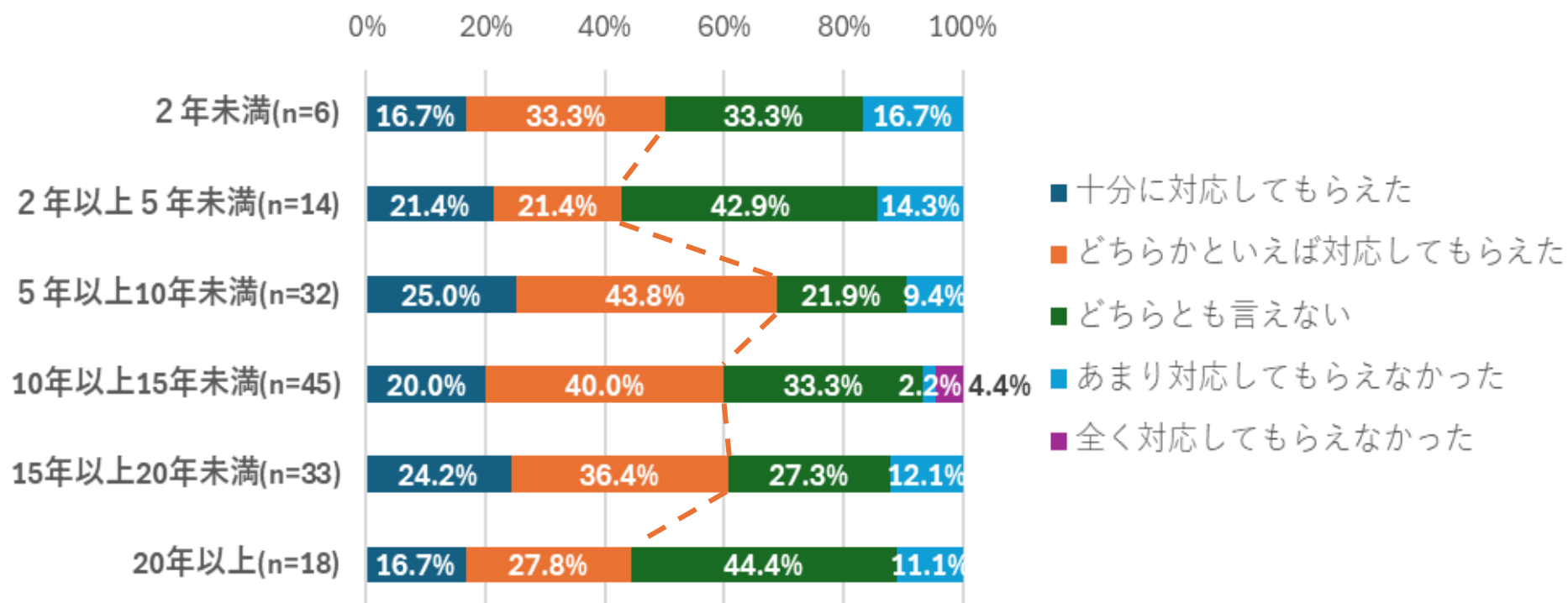
高齢者福祉サービス（入浴証、出張調髪、布団乾燥等）



相談内容別における経験年数別満足度

- 経験年数「5年以上10年未満」の満足度が最も高い。別の質問項目についても、「5年以上10年未満」、「10年以上15年未満」の満足度が高い傾向にある。

関係づくり（本人、介護者、家族、近隣住民等を含む）



相談内容別満足度（自由意見）

●十分に対応してもらえた内容

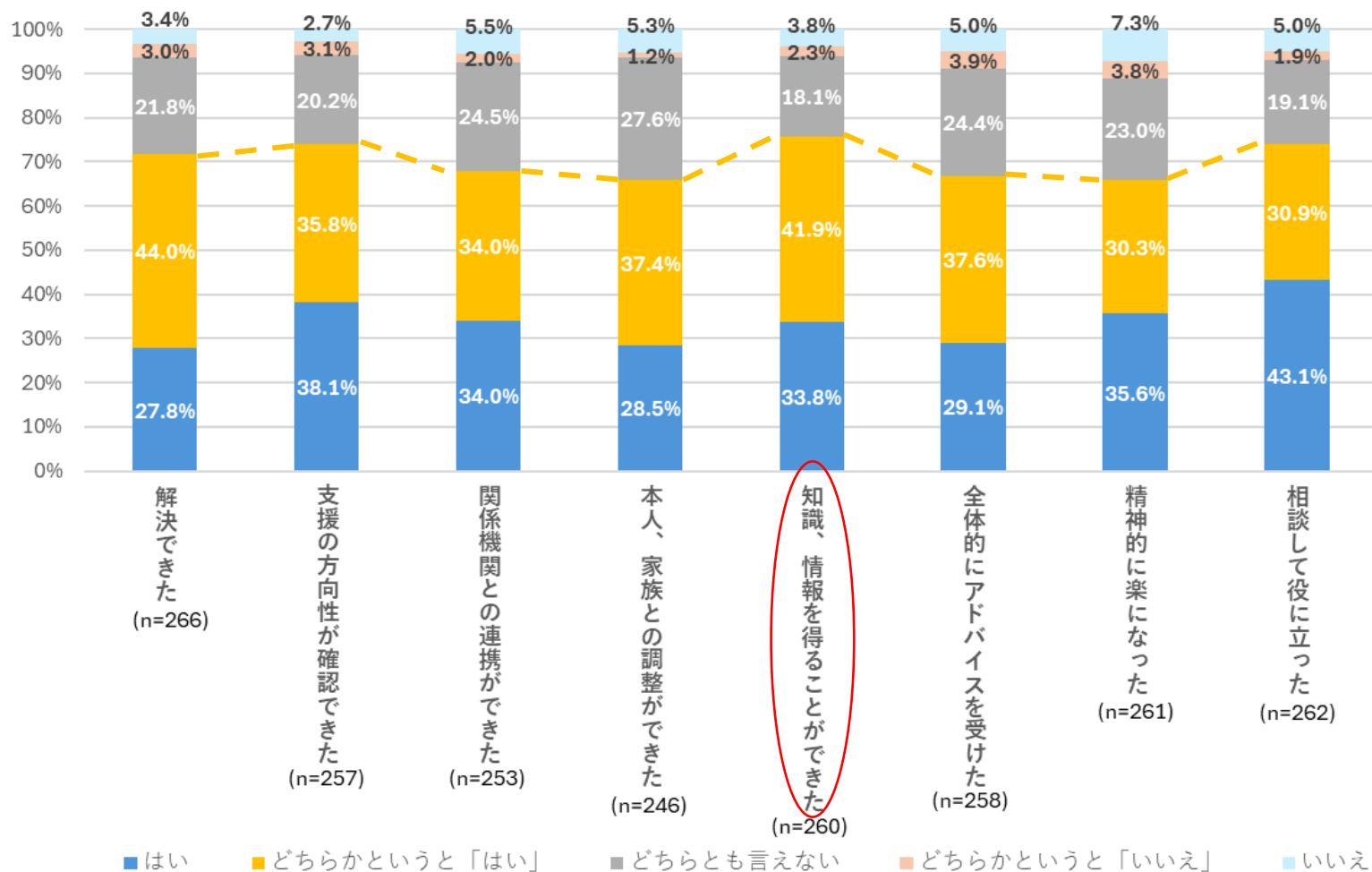
- ・虐待事例で通報後、すぐに秘密保護に配慮した家庭訪問を実施してもらえた。
- ・認知症の独居の男性が、真夏にエアコンのリモコンの使い方が分からず、ショートステイや入所の提案をしてもらえた。
- ・認知症で独居の男性に対して、家族を説得して医師の診察に繋げてくれた。
- ・後見人の申請から施設入所まで対応してくれました。

●十分に対応してもらえなかった内容

- ・職員の退職や担当の変更に伴い、内部でのケースの引き継ぎが不十分と感じる。
- ・センター内での共有がされていない事もあると感じる。個人情報もあるので仕方ない部分ではあるが。
- ・忙しくてつかまらない印象がある。

項目別相談結果

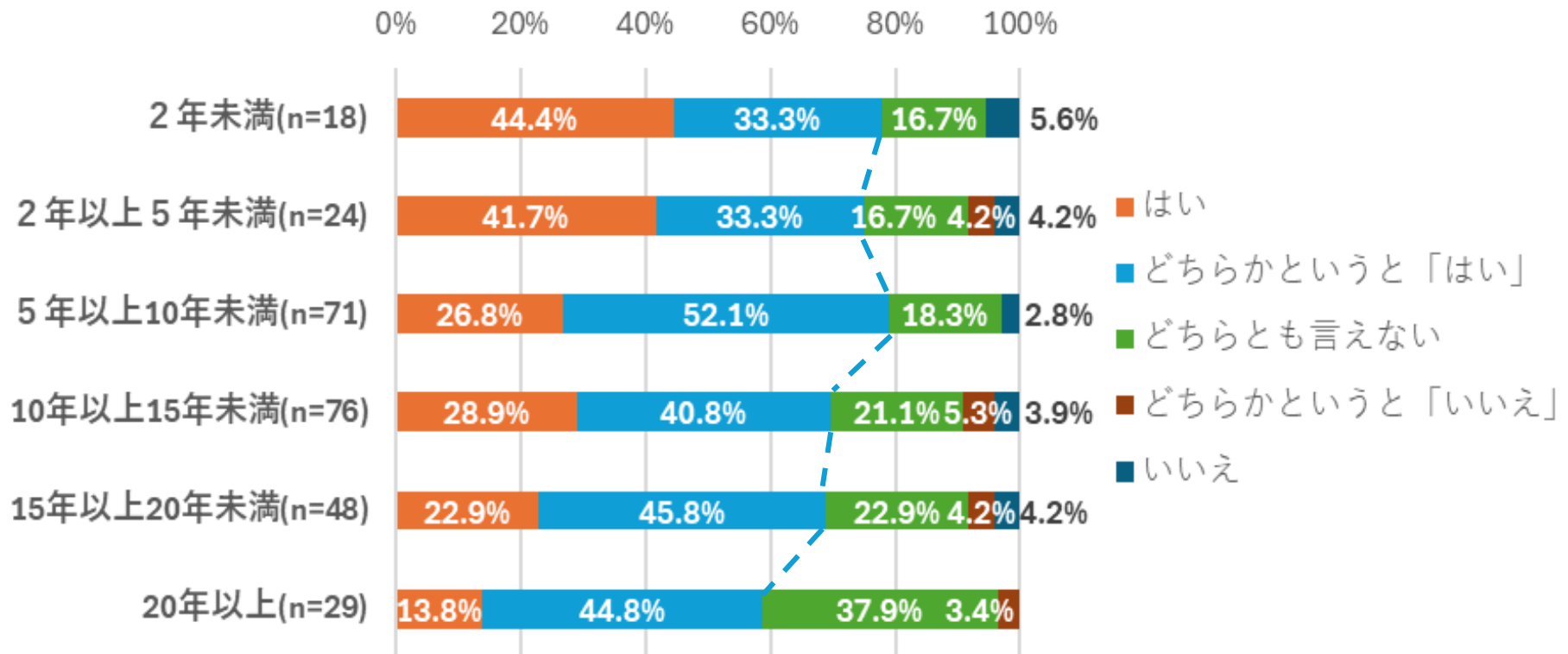
- 相談結果すべての項目において「はい」、「どちらかというと『はい』」に65%以上が回答した。
- 特に「知識、情報を得ることができた」については75%を超えている。



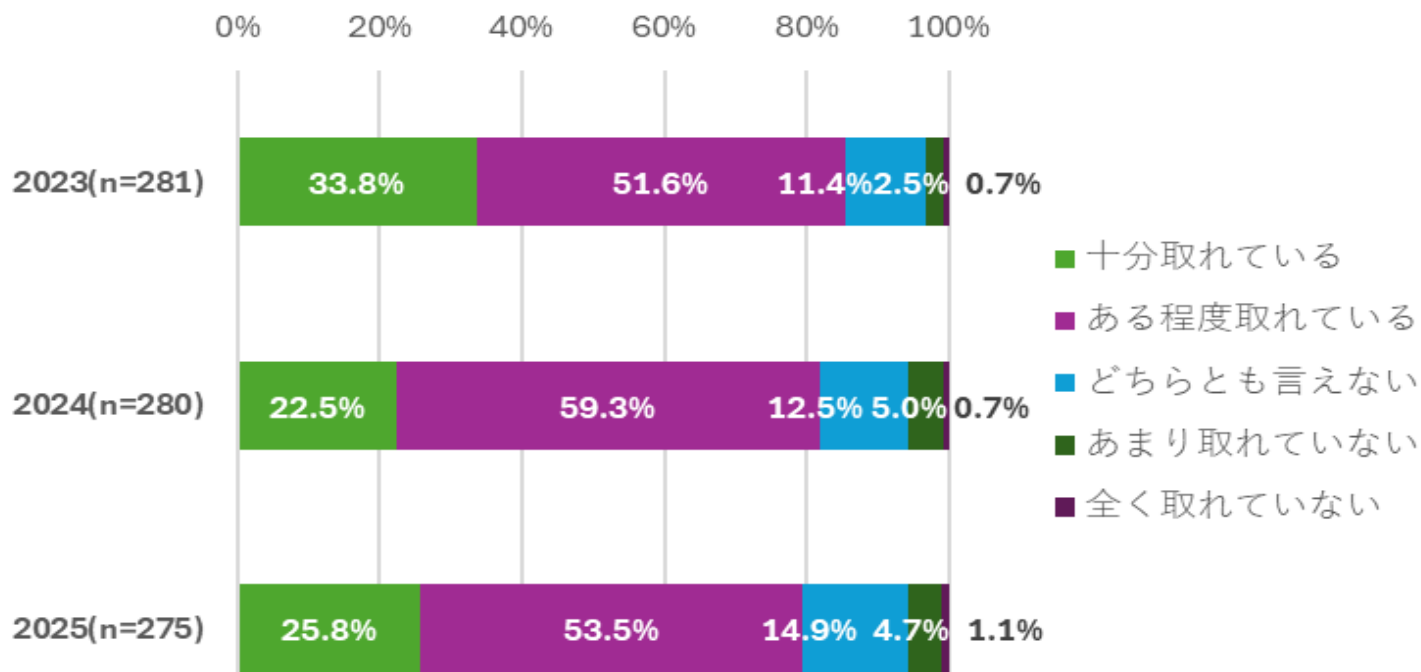
相談結果

- ・ 経験年数が上がるにつれて、「解決できた」と感じる割合が低下している。

解決できた



地域包括支援センターとの連携状況

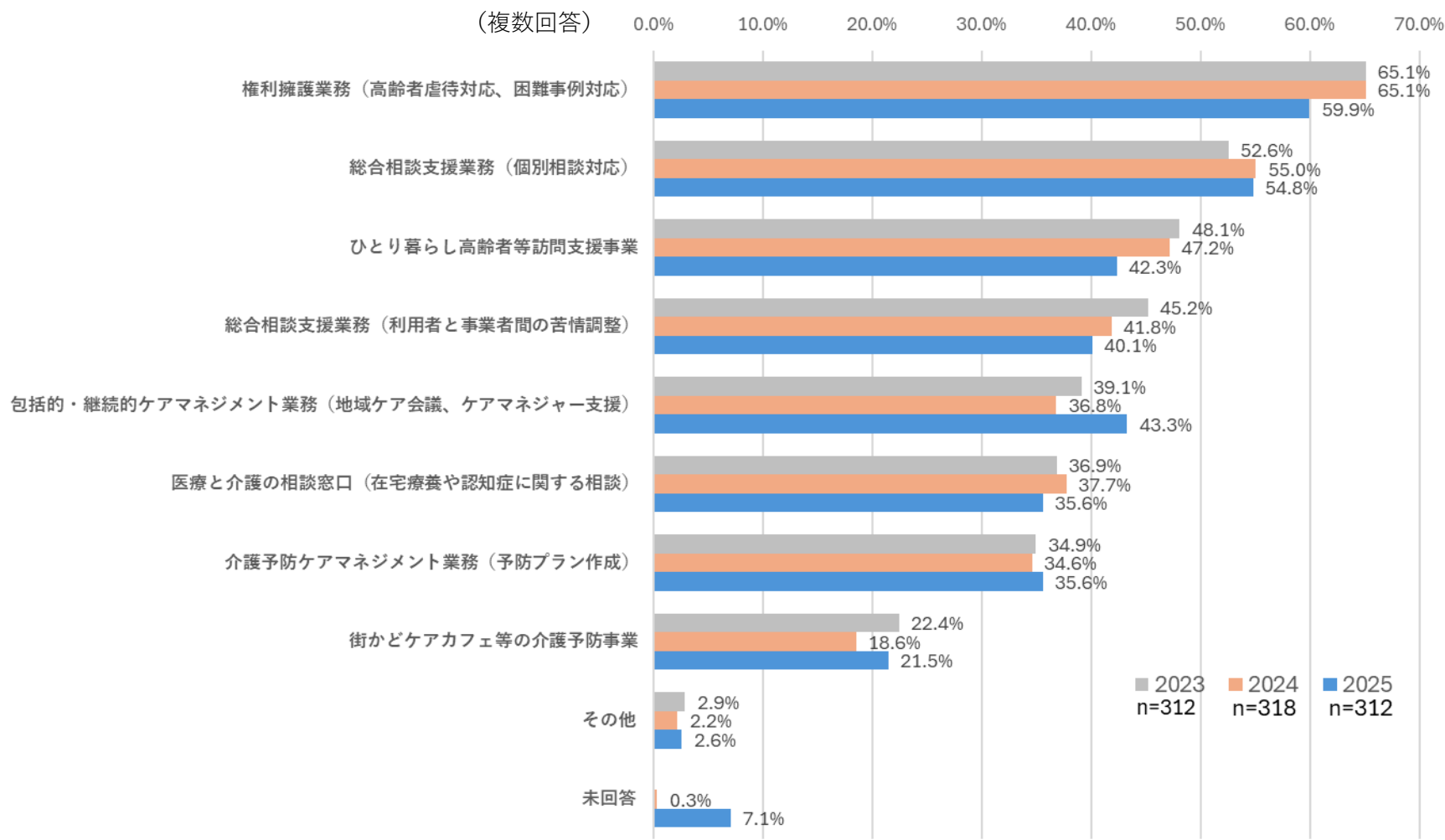


●実際に連携した事例（自由記述）

- ・ 家族内で関係が悪く金銭トラブルとなった際に、家族の要望に応じて同行してくださり、解決に向けて具体的助言ができた。家族も同席があった事で安心したとの事。
- ・ 認知症独居高齢者の支援について、後見人についての親族への説明などを包括職員がしてくれた。訪問についても、ケアマネが対応できない土曜日などに支援してくれた。

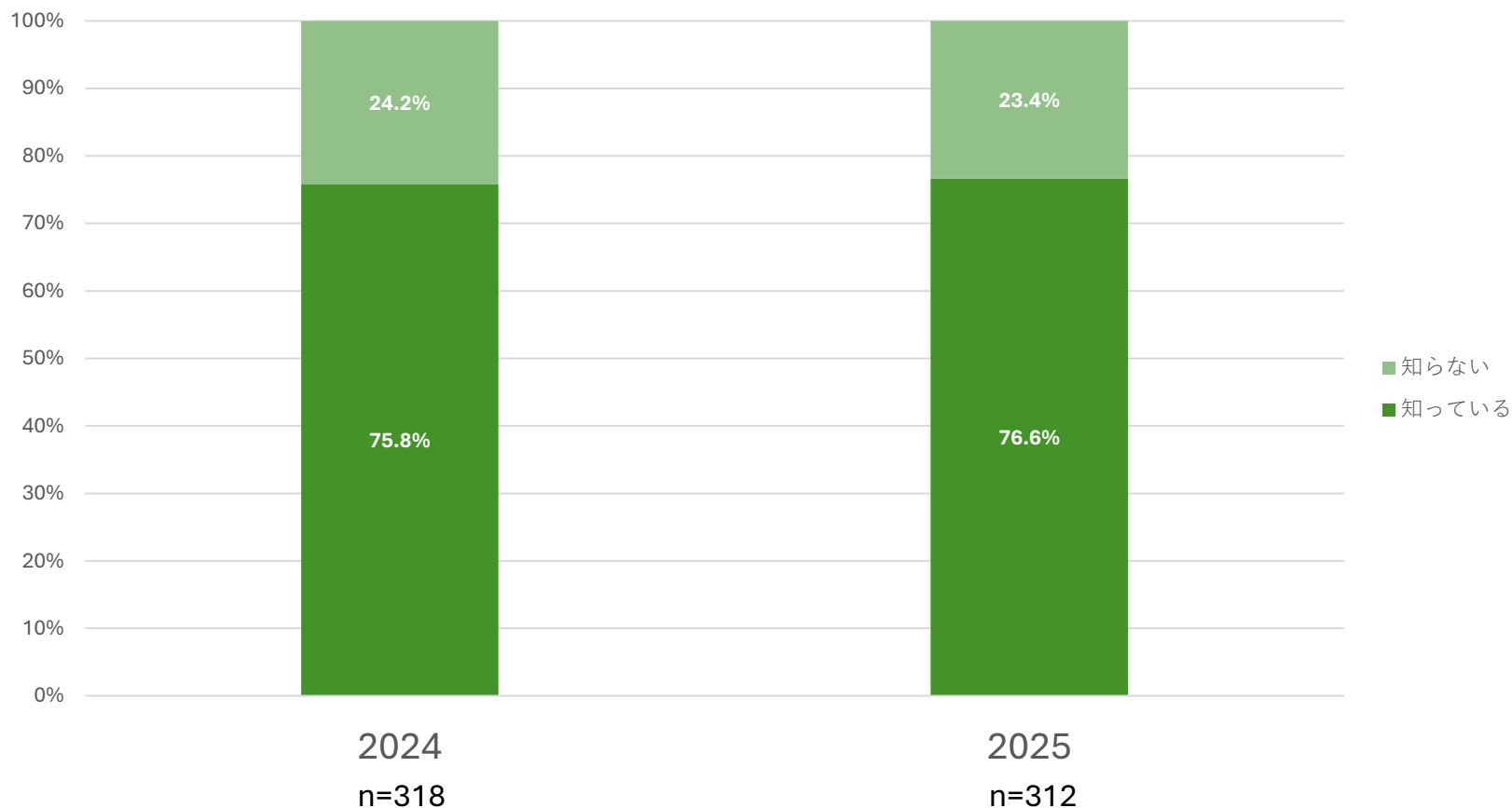
地域包括支援センターに充実が望まれる業務

- 3 か年連続で最も多いのが「権利擁護業務」であるが、今年度は5.2%減少した一方で、「包括的・継続的ケアマネジメント業務」の割合が6.5%上昇し、ケアマネージャーへの支援を望む回答が増えている。



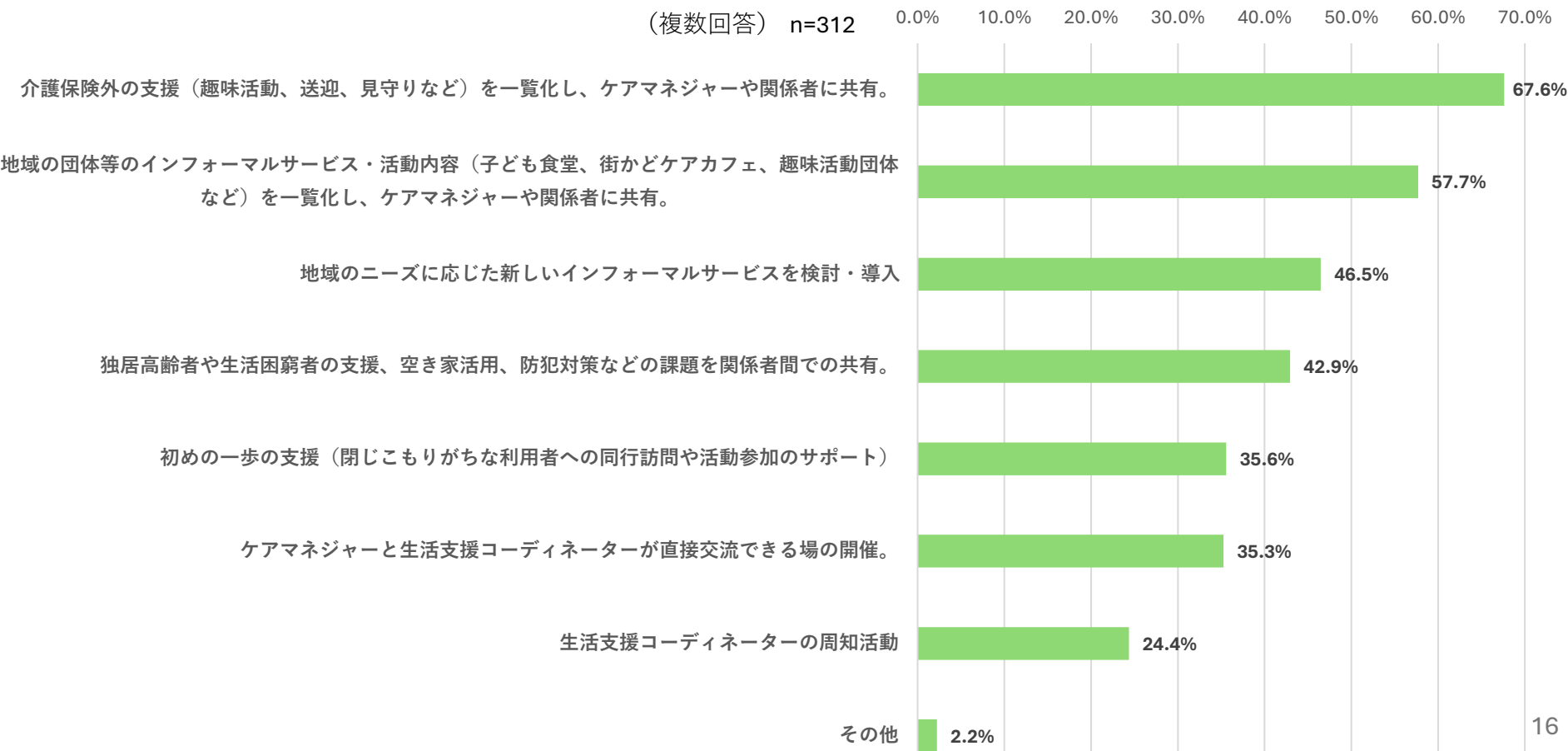
生活支援コーディネーターの認知度

- 令和6年度から地域包括支援センター27か所に配置された生活支援コーディネーターの認知度は、今年度76.6%と昨年度から僅かに増となっている。



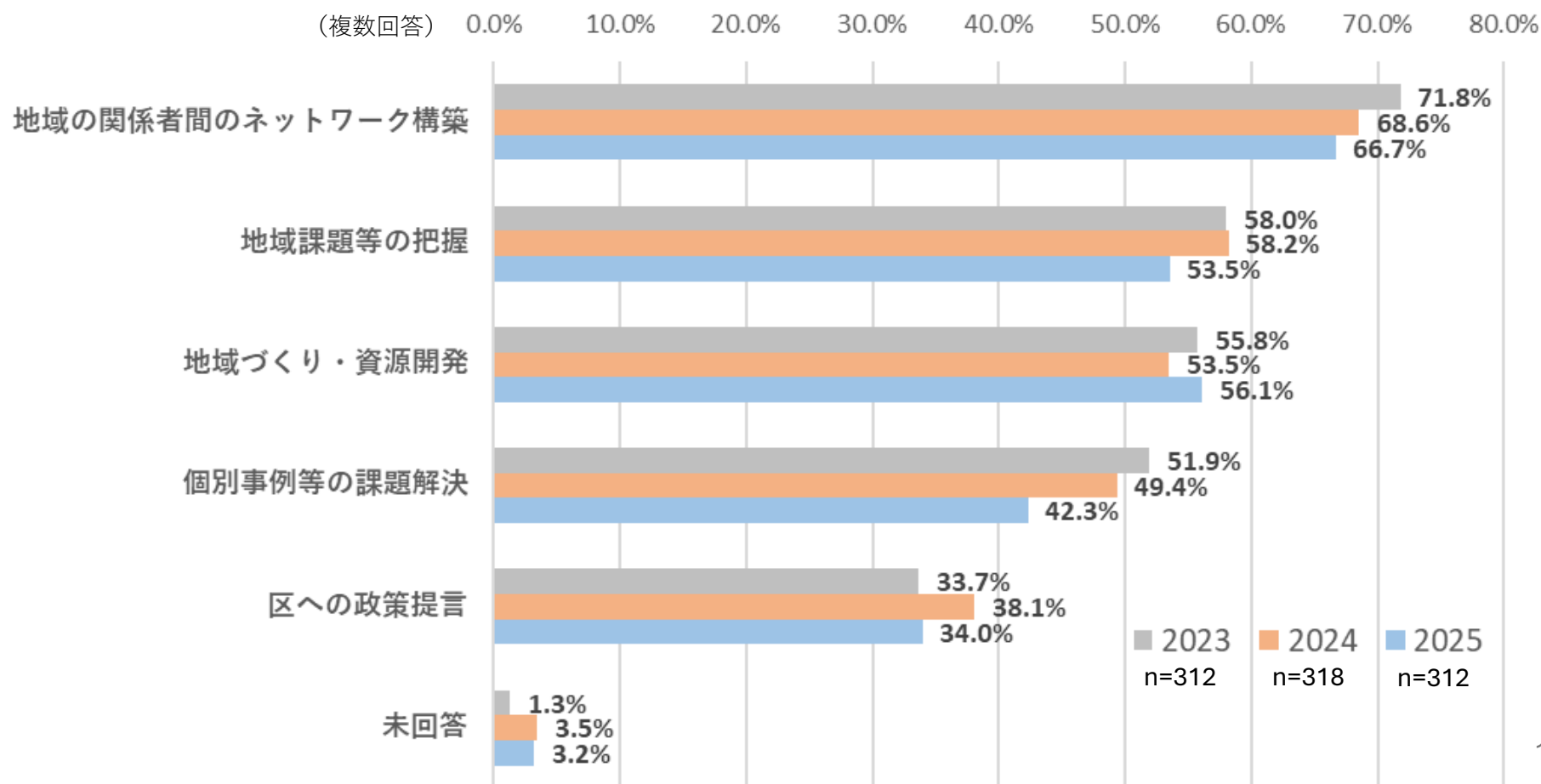
生活支援コーディネーターとの連携が望まれること

- 特に介護保険外の支援と地域の団体等のインフォーマルサービスや活動内容の周知が求められている。
- 新しいインフォーマルサービスの検討・導入についても約半数が望んでいる。



地域ケア会議・協議体に必要なと考える機能

- 2025については、「地域づくり・資源開発」が増加傾向。
- 区への政策提言が例年30%台で推移している。

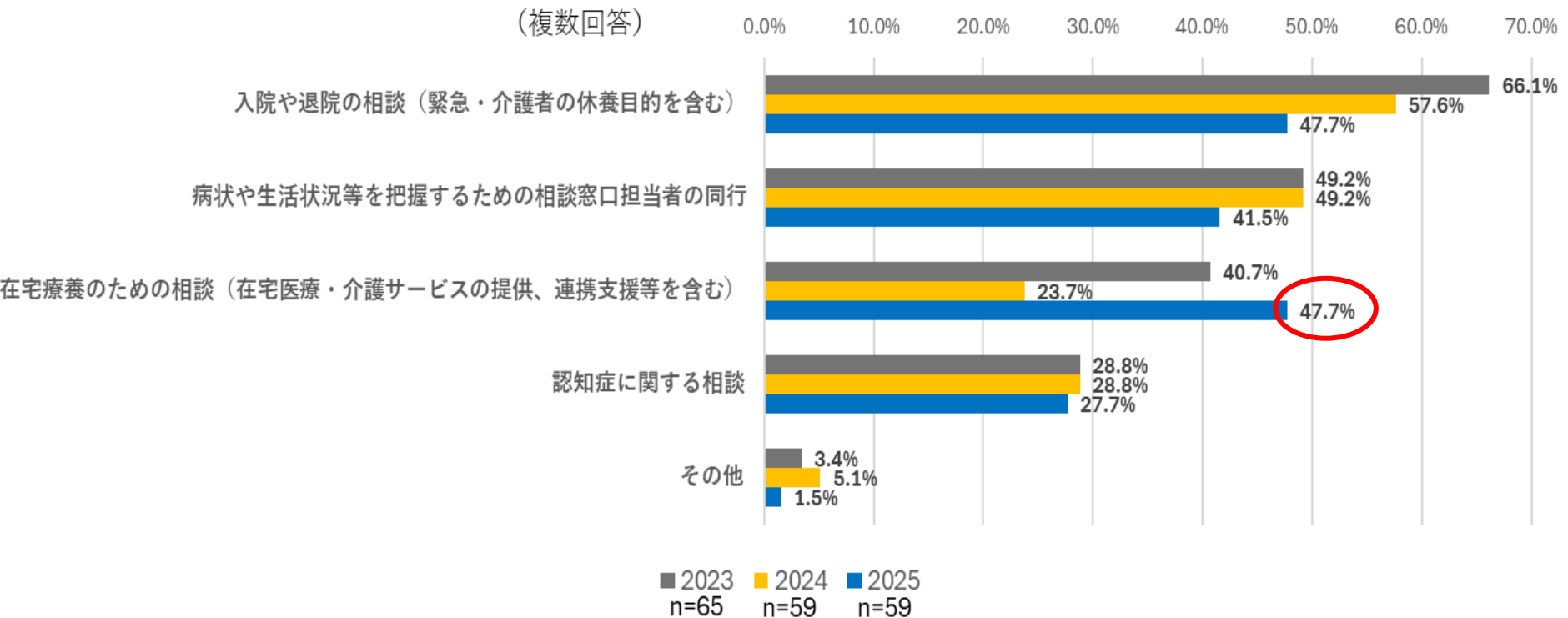


地域ケア会議・協議体に関する要望など（自由意見）

- ケアマネの個別プランの検討ではなく、地域との交流の糸口や資源を発展させるような取り組みに注力してもらいたい。
- 地域ケア会議で実現できることは、顔の見える関係づくりだと思います。
- 事業所のケアマネ全員に参加させたいので、開催頻度を増やして欲しいです。
- 会議体が複数存在するのではなく、集約をし、簡素化した方が、行政も民間も負担にならないのではないか。

医療と介護の相談窓口への相談内容

- 入院や退院の相談が最も多いが、3年連続で減少している一方で、在宅療養のための相談が昨年度の倍以上に増えている。



地域包括支援センターへのご意見・ご要望

- ケアマネジメントの支援相談窓口として、介護以外の他制度も活用した解決策を一緒にして頂けるため、孤独感を感じることなく支援が出来るので安心していきます。
- IT化が進む中、書類のやり取りや実績報告等、メール等を使う効率化を希望します。
- 予防プランが増え、負担が大きい。包括でも抱えきれないようでかなり大変そうに感じている。予防プランの事務負担の軽減を検討してほしい。負担が大きく葛藤がある。
- ケアマネは地域のことをよく知っているので生活支援コーディネーター側からどんどん近づいていって色々な情報を引き出してください。
- 施設に出向いてくださるボランティアや包括職員の方がいると、利用者とも施設職員とも顔見知りになり、様々な相談をしやすくなると思います。また家族からの相談も包括へ繋ぎやすくなると思います。
- 引き続き、認知症が悪化した精神疾患の方について入院への道作りをお願いしたい。家族の精神疾患にも窓口が欲しい。
- 金銭管理や自己決定が困難な方への権利擁護について、引き続きご協力いただきたい。